

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
©十勝毎日新聞社 2005
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
TEL(代表)0155-22-2121

編集局 0155-22-2121
広告局 0155-23-2323
販売局 0155-24-2222
庶務局 0155-22-7555
総務局 0155-24-2299

広尾支局 01558-2-4111
池田支局 01557-2-2367
本別支局 01562-2-2618
新得支局 01566-4-5524
札幌支社 011-261-2161
東京支社 03-3544-1365

大樹実施見直しも

道宇宙科学 創成センター | 高層用打ち上げ困難

ハイブリッドロケット実験

保安距離確保がネック



ハイブリッドロケットで2002年3月から行われてきたハイブリッドロケットの多目的航空公園に、これまで4回打ち上げられ、一度1000mで射点から半径1

【札幌】大樹町で打ち上げ実験が行われてきたハイブリッドロケットの開発を支援しているNPO法人、北海道宇宙科学技術創成センター(札幌、HASTIC)は、次の実験段階となる高層用ロケットの射場から、同町を外すことも含め検討している。十分な保安距離を確保できないため、これまで行ってきた到着高度1000mまでの打ち上げは継続する意向だが、本格的な実験には同町が利用されない可能性があるという。(平野明)

「保安距離」としてきたが、来年3月に打ち上げるロケットの到達高度は315mを目標とし、保安距離も315m程度まで広げなければならぬ。ところが、今の射点では、国道の関係から保安距離をこれ以上広げることが難しく、仮に保安距離を500mまで広げると民家や晩成温泉なども圏内に含まれ、打ち上げは無理となる。

HASTICでは、来年3月に続いて06年度か07年度には、到達高度650mの高層気象観測用ロケットロケット(昨年3月、大樹町で)

ハイブリッドロケットの推進剤に固体燃料と液体酸素を使い、燃料性能の高い液体ロケットと、構造が簡単で燃料保存も容易な固体ロケットの利点を併せ持つ。従来より低コスト、低公害で、安全性が高いとされ、道の宇宙産業参入の切り札として実用化が模索されている。

新たな射場として網走管内涌上町、紋別市、宇宙航空研究開発機構の内の浦宇宙空間観測所(鹿兒島県)能代多目的実験場(秋田県)が浮上している。HASTICは既に宇宙航空研究開発機構へ口頭で意向を伝え、涌上町では協力姿勢を見せている。

伊藤一専務(北大名誉教授)は「射場の選考には、地元との関係や漁業補償などの問題があり、検討はこれからで、正式には何も決めていない。仮に射場を移すことになっても大樹町にはお世話になってきた関係があり、到達高度1000mでの打ち上げを継続した

い。宇宙に關したイベントや教育活動などが期待できる」と話している。大樹町の宇宙への取り組みは、1988年に策定された道の戦略プロジェクトに「航空宇宙産業基地構想」が盛り込まれ、宇宙輸送機の離発着場が大樹町に計画されたのが発端。

最近では、積極的に実験を受け入れてきたが、宇宙航空研究開発機構と情報通信研究機構による無人飛行船による「成圏圏プラットフォーム」の飛行試験が事務評価や予算の関係で今年度は中止される。町は「射点を変更し海

上でロケットを回収する選択肢もあるはず」としている。